随　筆

現代の学生気質（アンケート集約結果から見る現代の学生像）

木　下　仁　志*

1．はじめに

現在の学生は従順，温和であるが勉学に積極性がなく独創性に欠けるといわれる．

かっては学園紛争当時，学生は怒れる若者の象徴であり社会に楯ついた張本人であった．これは日本の高度成長過程における社会の歪と隙間が衝かれたということである．つまり身体が疲労困憊しているとき風邪などの流行病にかかり易いのと同様である．

現在はこの様な社会の欠陥が是正され，管理体制が整備された結果，若者の特質から来る現状打破，理想追究，直情径行等の意欲が抑圧され，本来のエネルギーが別方面に向けられていると考える．

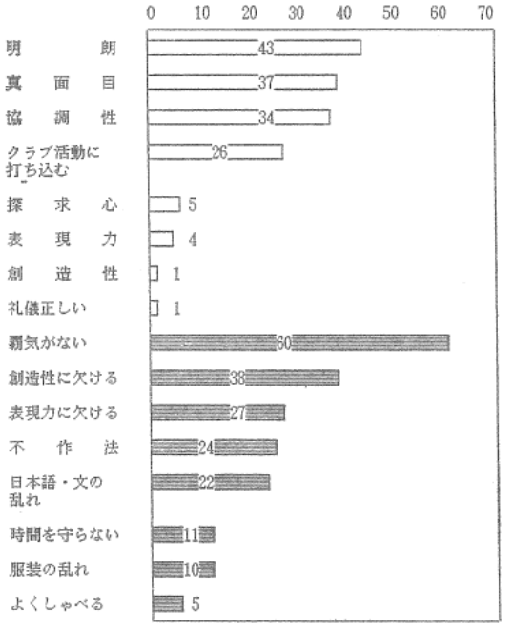
しからば余り表面に出ていない現代学生の実情なり意識はどの様なものであろうか，一般社会からも関心を寄せられる節もあろうと思われる．筆者は限られた範囲の技術教育者に過ぎぬので教育，心理学等の専門家の様に広範な観察，或いは気の効いた表現力を持ち合わさないが，大阪大学新聞並びに同学生生活実態調査報告書等に記載されたアンケート結果を基に，主として身近な大阪大学の学生を対象とした生活様式或いは意識の実情を紹介し，若干の見解を述べてみたいと思う．

2．アンケート結果に見る箇条別特質と様相

（1）　現代学生の長短所

表1にも見る様に現代学生の特徴は明朗，真面目で協調性がある半面，覇気に乏しく創造性，表現力に欠けるなどが一般の評価である．所謂体制順応型ともいうべき現在社会には差し障りのない無難な在り方ともいえるが矢張り将来を託する若者としては少し物足りないということもできよう．

表1　現代学生の長短所



注）全国国立大学入試責任者を対象・昭和57年12月10日調査
□長所　■短所　数字は回答数

然し7，8年前の学生が頭髪を山賊の様に伸ばし，顔見知りであり乍ら教師と出会ってもそ知らぬ体をするものが可なりいた事に較べれば，今は服装にも年頃を思わせる純な感じがし，礼儀も大変良くなっている．例えば横断歩道を渡るときも車が停って待っていると駆け足で通り抜けるなど，人に対する優しい心配りのできる学生が増えている．これなど矢張り社会の指導的立場に進むべき若者の素養が忍ばれて上述の欠点を補うに足る良い面ではないかと考える．

（2）　学園生活に対する認識

大学進学の動機なり抱負は学問，研究がしたい，専門知識，技術の修得，教養視野の拡大等

*木下仁志（Hitoshi KINOSHITA），大阪大学工学部，電気工学，教授，工学博士，電力工学

が主なものであるが中には就職に有利という現実的な発想に根ざす者もある．これらの学生が学園生活に対して現実に感じている感想は，全国学生の統計であるが，自由であるが活気がないという回答が50％を越え，中には退廃的であるという回答も20％近く寄せられている．これらは入学直後に現われる5月病が代表する様に，入学迄の気負い立った大学生活への憧憬が現実に潰れ去り，自己の進路に戸惑いを感じるようになった状態に基づくものと思われる．その具体的な結果は教養過程から専門過程へ進む段階での留年率にも現われている．これは年度によりまた大学によっても異なると思えるが，大阪大学の例では全体で昭和54年度が16.6％，56年度は13.4％となっている．

（3） 学生の出身地と家庭環境

最近は卒業後の就職先が親元に近い所へ傾きつつあるのと同様，入学する大学も所在地近辺の出身者が多くなっている．大阪大学の例では70％が近畿地方の出身で以下中国，四国，九州，北陸，中部の順に少なくなっており関東以北は2％弱である．

家計を支える父兄の職業は中小，大企業勤務が大半を占めるが，公務員，自営業も可なりの割合を占めている．それらの家庭の年間所得総額は昭和56年では450～500万円の範囲が一番多く（13.6％），1,000万円を超す家庭も8％程含まれる．中には少数であるが母子家庭の様に可なり経済的に恵まれない子弟も混っている．

（4） 学生生活の実態

これについての一般的関心は学生が日常に於てどの様な事に興味を持ち，何に主として時間を費やし，その為の生活費がどの位でその捻出手段がどうあるかという事であろう．専攻する学問分野を別にすれば，学生の活動は主として各種のサークルに於て行われよう．然し阪大生に限ってはサークル活動に積極的でなく，サークルの存在そのものは肯定するものの実際には学業に差し障るなどの理由で途中でやめるとか初めから参加しない者の方が多くなっている．

個人的嗜好を購読雑誌で見ると漫画雑誌とか当世の流行を追う類のものが圧倒的である．この辺に現代学生の特質が端的に窺えるものと思われる（表2参照）．

表2　定期講読している雑誌ベスト15

	週刊誌		月行誌	
1	少年サンデー	432(16)	GORO	200(13)
2	少年ジャンプ	306(10)	ビッグ・トゥモロウ	115(5)
3	プレイボーイ	304(10)	ノンノ	110(4)
4	少年マガジン	270(7)	Lーマガジン	91(17)
5	フォーカス	220(13)	月刊プレイボーイ	88(8)
6	週刊朝日	158(4)	ぴあ	85(0)
7	朝日ジャーナル	146(6)	FMfan	77(2)
8	ヤング・ジャンプ	86(9)	ポパイ	76(4)
9	平凡パンチ	78(4)	ニュートン	74(5)
10	週刊FM	72(7)	リーダーズダイジェスト	55(0)
11	TIME	51(0)	文芸春秋	54(3)
12	週刊ポスト	39(0)	ASCII	48(4)
13	NEWS・WEEK	25(0)	ダ・カーポ	47(5)
14	サンデー毎日	23(1)	世界	47(2)
15	週刊文春	20(1)	FMレコパル	46(6)

注）数字は全国数、（ ）内は阪大の人数
昭和58年 3月20日調査

学生の生活費の平均は表3の様に示されている．単位が100円で表わされ，収入と支出の合計が違うなどは如何にも学生の収支バランス表といえる．内訳を見ると学生の本業に必要な書籍，文具代と較べ，教養誤楽費というものが上回っていることがわかる．最近は学生の趣味趣好がエスカレートし学生の持物も金のかかるものが多くなり，車による通学も増える一方である（表4参照）．この様な所謂贅沢に属する費用を含め日常生活費は一体どの様に捻出されているのであろうか．表に依れば下宿生活者は主として家庭からの仕送りに頼っており，その不足分をアルバイトにより補充していることが明瞭である．また仕送りに対するアルバイトの比重は特に自宅通学者の場合に大きいことがわかる．表5に見る通りアルバイトの動機は大部分小遣い稼ぎである．学生アルバイトが真に家計を助ける意味でなされるなら違和感はないが，別の調査結果にアルバイトが大して苦にならないという回答が半数近く出ていることを

表3　阪大生の月平均生活費

（昭和58年、単位：100円）

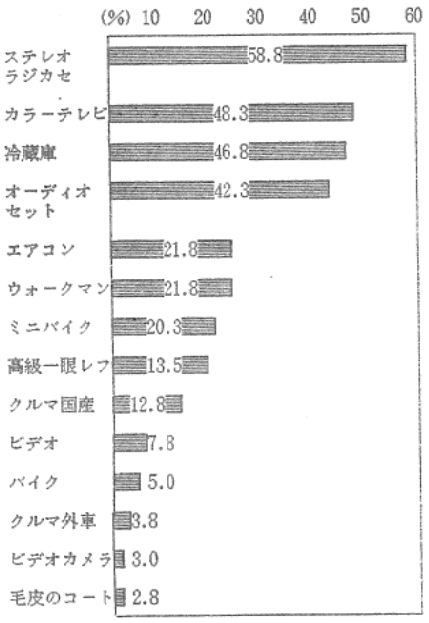
〔収入〕

	自　宅	下　宿
仕送り	157.0	584.1
奨学金	31.5	62.8
アルバイト	275.9	157.9
その他	5.6	0.8
計	470.0	805.6

〔支出〕

	自　宅	下　宿
書籍代	52.4	59.8
文具代	17.9	20.1
交通費	48.8	24.0
教養娯楽費	101.6	99.6
食　費	87.3	286.8
住居費	——	156.7
日常費	40.6	70.7
その他	90.8	108.7
納付金	8.0	11.3
計	447.5	837.7

表4　学生の所有物



見るにつけ，何の目的でするかという動機との兼ね合いが問題ではないかと愚考する．表6は学生の実際的な金銭哲学を如実に示すものとして大変興味ある統計といえる．

（5）　性の意識

これは若者として本質的に避けて通れない問題であるが，表7に示す通り一般学生の意識は全国的に開放的な考えが広まっている様に見受けられる．唯これを個々の学生が自己の行動規範の中に捕えて考えているのか，或いは一般的思潮として肯定しているのかが今一つ明瞭でないという意見がある．

表5　アルバイトを必要とする理由

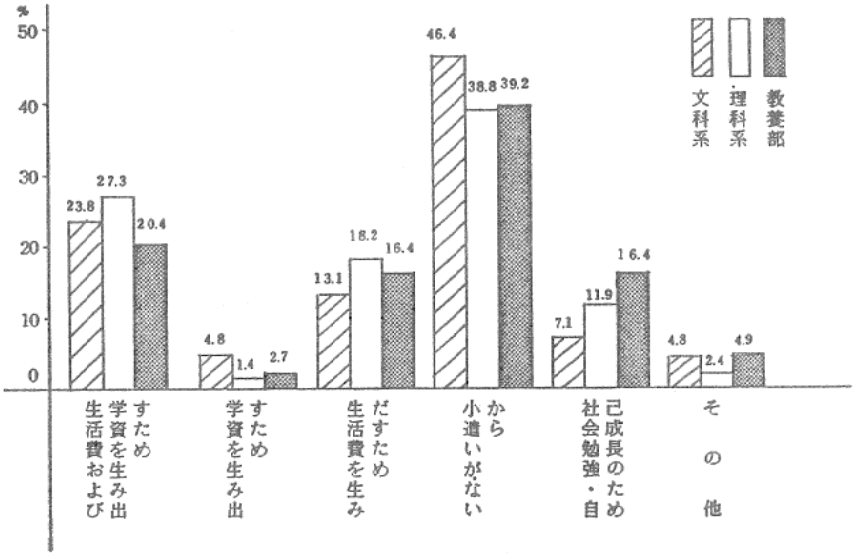
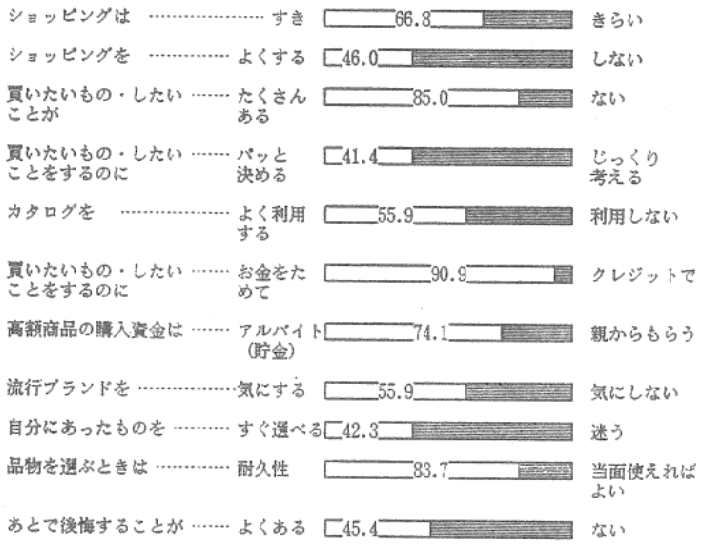


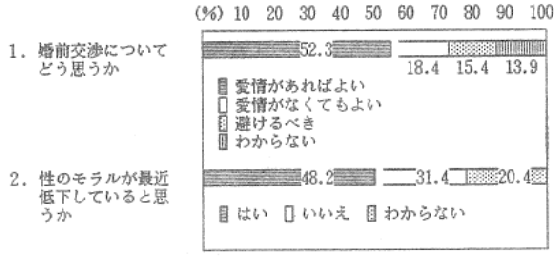
表6　購　買　行　動

―― 自己資金で堅実な買物をする学生像 ――



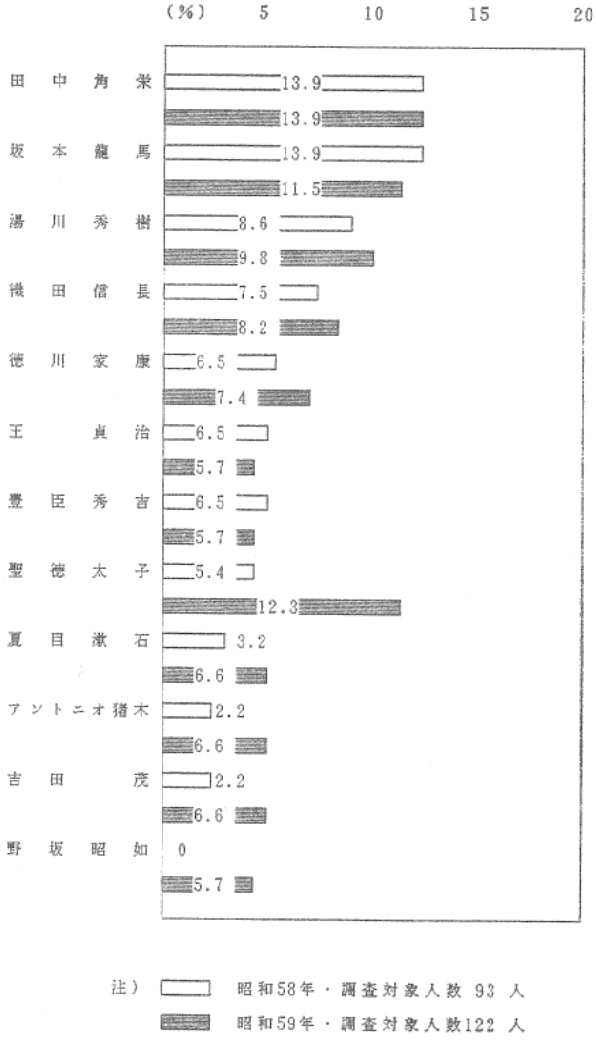
注）大阪大学生活協同組合による「1981年度学生の消費生活に関する実態調査」より
数字は%

表7　性の強識について



注）昭和57年 1月20日調査の全国学生1万人調査より

表8　尊敬する日本人



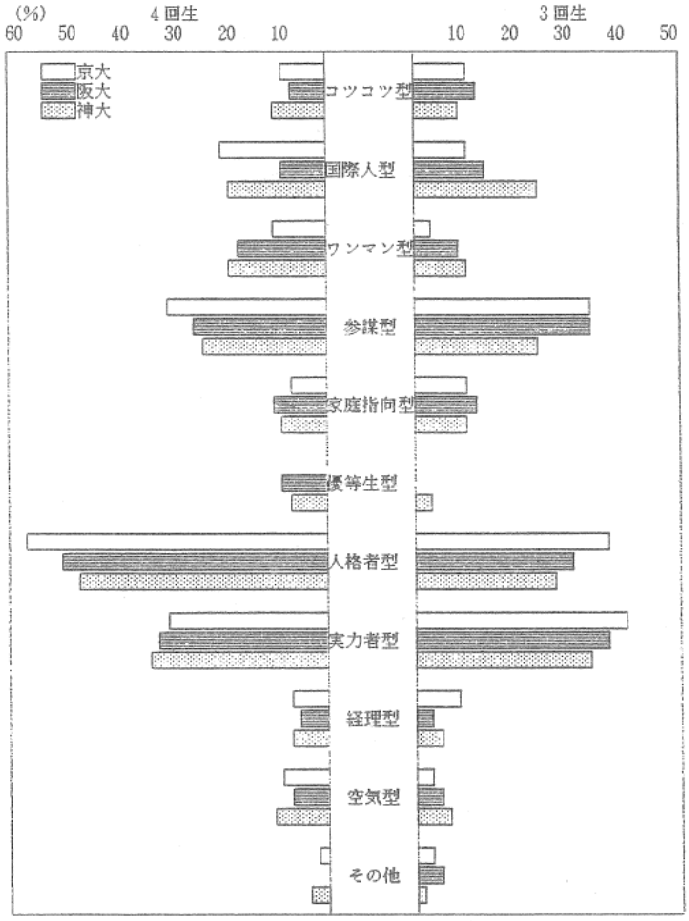
注）昭和58年・調査対象人数 93 人
昭和59年・調査対象人数122 人

（6）　尊敬する人物　憧れる人間像

青年心理学研究家，加賀乙彦氏の青年の特徴を表わす言葉に「世の中に無知なるが故のロマンチシズム，夢多きが故の挫折感云云」というのがある．当今の学生も色んな夢を描いて，それにフィットした古今の人物像を模索しているのであろうが大体に於て尊敬する人物，憧れる人物というのは歴史的英雄とか政治家，科学者等である．然し表8に出た人物の意表性には一驚を禁じ得ない．これこそ青年そのものの特徴というべきか，もっと現実的，功利的考えに拠るものなのか判断に苦しむものである．

然し表9を見る限り，全般的には学生と雖も実際的で堅固な考えを持ち合わせていることが伺われ，後事を託するに不足はない様にも思わ

表9　どんな人に憧れるか



注）昭和56年 7月20日調査・調査対照：京大、阪大、神大の法、経済学部3、4回生

れる．

（7）　政治，国防意識

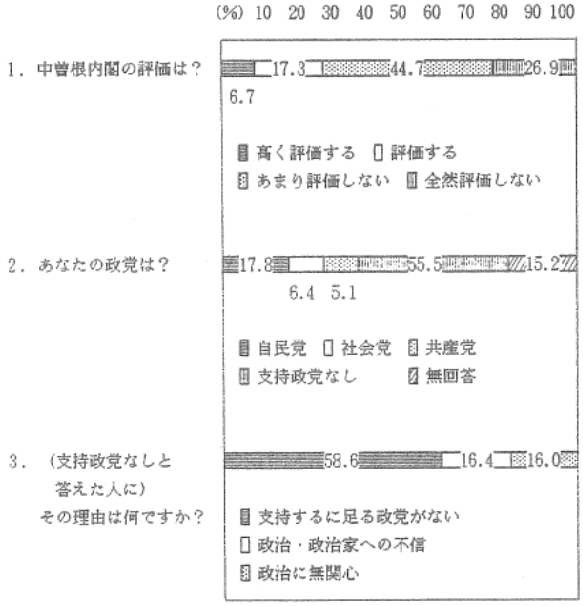
表10に見られる通り現政権をあまり評価しない，または全然評価しないが7割に達している．これは寧ろ，評価しないのではなく日頃政治に関心がないため評価のしようがないということではなかろうか．支持政党なしが6割近いのもその現われであろう．政治，社会問題に冷淡，無関心であるのは学生に限らず現代青年に共通した特徴の様に思われる．

国防意識については表11に見られる様に全国台の学生の意志が示されているが，これも戦争の実態を知らない学生層にとっては，ほんとうの事はその場に臨まねばわからぬことであろう．

（8）　就職に対する価値観

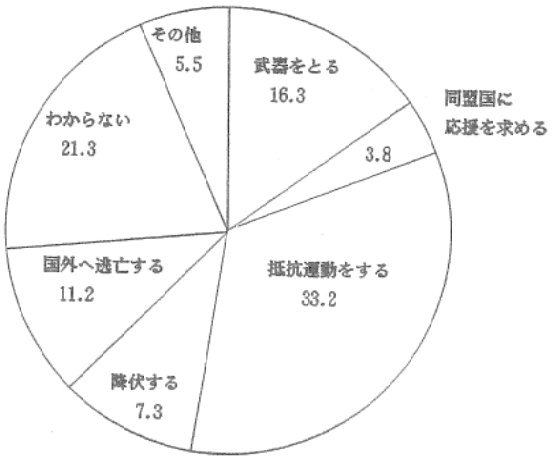
現在の大学は極言するなら，学生にとっては就職の為の登用門であって，入学の目的が卒業

表10　政治強識



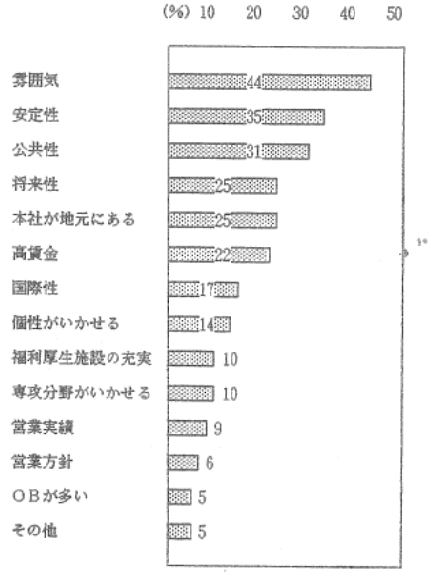
注）数字は%
昭和59年 2月20日全国学生新聞会連合による1万人アンケートより

表11　外国の侵略を受けたら



注）数字は%
昭和58年 3月20日調査
全国学生新聞会連合アンケートより

表12　最終的に就職先を決定した動機は



注）昭和56年 7月20日調査
調査対象：阪大の法・経済学部4回生

後の生活の安定とか栄達を期するためにあるとするのが世間一般の見方である．従って就職先の選定に当っては相当慎重かつ理詰めになるのが当然と思えるが，表12の結果では，意外にも雰囲気即ち情感的要素が就職先の決定に大きく作用するということが示され大変興味あることと思われる．最近，企業間の格差が学生の就職希望にも響いて，小企業に人材が集まりにくい傾向が見られる様であるが，若しこの様な雰囲気尊重の気風が全般にあるとすれば採用側の方にも良いヒントとなろう．

尚この統計に現われていない現代学生の就職に対する風潮として挙げられることは，当世の花形流行産業に集中して指向することである．この事は単に技術系学生に限られることかも知れないが，この様な自己確立のない近視眼的傾向が今後全般的に拡がるとすれば我が国産業界の将来に憂慮すべき結果をもたらすことが考えられる．教育，企業両面からの矯正策が是非必要と思われる．

3．ま　と　め

以上はアンケート結果から直接感じられる現代学生の生活実態なり意識の概要を示したものである．しかしこれに作用している学生の内面的な心理状態については殆んど触れていない．そこで特に重要な事は矢張り冒頭で示した様に理代の学生が礼儀正しく従順である半面，積極性，創造性に欠ける特質がどの様なことから現われて来ているかということであろう．

青年心理学の専門家はこれらを，管理社会への過剰適応に依り，青年達の沈黙の反抗が内攻しつつある状態であると説明する．即ち若者の内面は決して表面的に見る様な単純な体制順応ではなく，自己中心，私生活重点主義が内部に台頭し，先行世代が望む青年の健康な反抗心即ち積極性が阻害されているというのである．その結果友人，知己に対しては有誼に厚く協調性があり，孝心，兄弟愛に富む半面，社会，政治，思想問題等には無頓着，冷淡になってくると結論づける．

ともあれ筆者は現在の学生が仮令この様な両面を持ち合わせようとも，心優しく素直な特性を備えることは決して悪いこととは思えない．従来往々にして，温和なしい者は意気地がない，才能さえあれば無作法が許されるなどという短絡的な考えが罷り通った．今もこの考えは一部に通用するかも知れない．然しこれからの世代は整然たる秩序の中にあって最大の効果を発揮することが求められるのである．望むべきは柔順にして且つ気骨のある，根性の据わった青年こそ，これからの社会に最も必要と考えら

れるべきではなかろうか．その意味で現代の学生により深い理解を示し，その長所を伸ばすと共に不足するものを彼等と共に工夫し乍ら与えることに努めることが先行世代に求められる責任ではないかと考える．

いささか感傷めいた脈絡のないまとまりとなったが，何分素人の談義として御諒承をお願いする次第である．

現在は、"鉄の文明"と評され、今日の世界から鉄を無くしたら、恐らく一切の文化は終息するだろうといわれています。
DNTは、創立の礎となった重防食塗料「ズボイド」を通じて既に半世紀近く私たちの大切な鉄を守りつづけてきました。
そして、これからもDNTはズボイドを生みだした重防食技術をベースに、独自の技術開発を進め、さらに、海外の優れた技術と協力しあって、より優秀な重防食システムとして結合させ、限りある資源を守りつづけていきます。

●創造と調和をめざす●

DNT
大日本塗料

●大阪市此花区西九条6-1-124
〒554☎(06)461-5371(大代)
●東京都千代田区丸の内3-3-1
〒100☎(03)216-1861(大代)